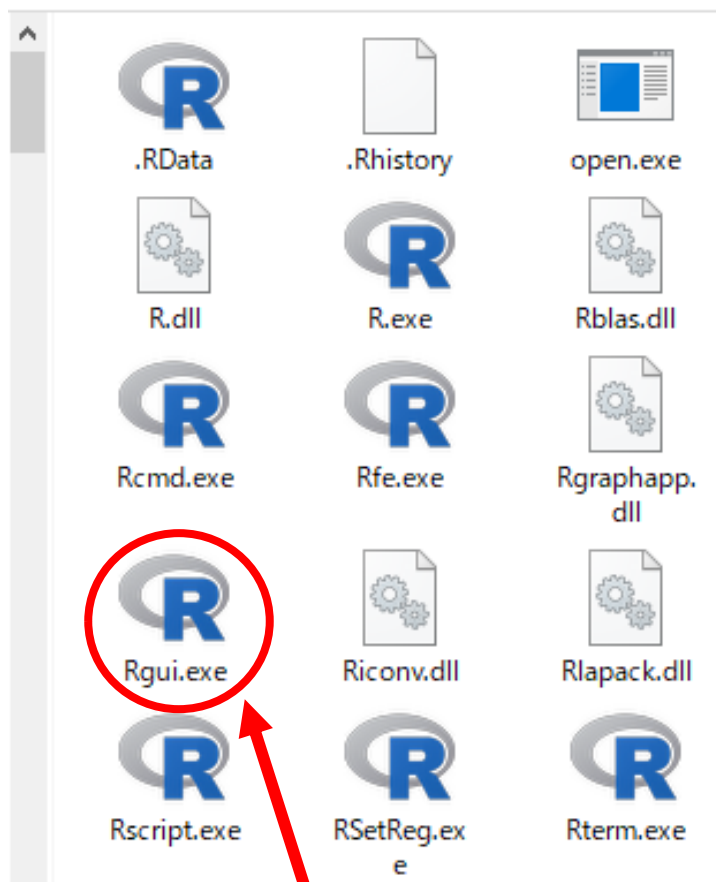


EXEファイル解凍が完了したら



- Modified_R_Commander 4.0.2.EXEの解凍が完了すると
「Modified_R_Commander 4.0.2」というフォルダが自動作成されます
- ① Modified_R_Commander 4.0.2フォルダをダブルクリックして開き、フォルダ内の②「bin」フォルダをダブルクリックします
- さらにbinフォルダ内の「x64」フォルダ（通常はこちら）をダブルクリックと進めていきます
 - ✓ 「32bitOS」の場合は④i386をダブルクリックしてください。

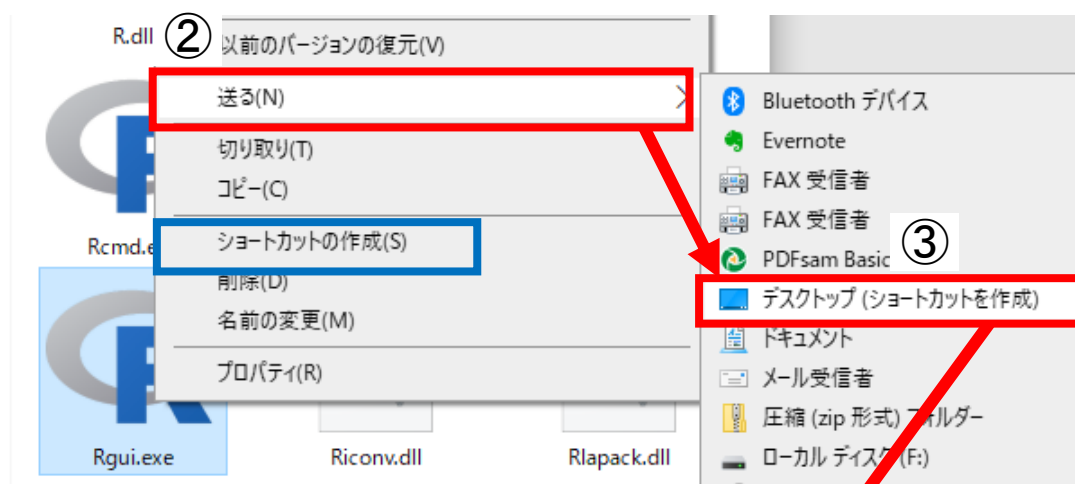
改変Rコマンドーの起動ファイル



Rgui.exe(または単にRgui)の
ファイルをダブルクリックで改
変Rコマンドーが起動

- 「x64」または「i386」フォルダ内の
「Rgui.exe」のファイルが改変Rコマン
ダーの起動ファイルです
 - ✓ ダブルクリックで起動します
 - ✓ 拡張子の設定によっては単に「Rgui」とだけ表示
される場合もあります
- デスクトップなどにショートカットを作る
と便利です
 - ✓ ショートカットの作り方は次ページをご参照くだ
さい
- 誤ってRgui.exeファイルを移動しないよう
に注意しましょう
 - ✓ 移動すると起動できません
 - ✓ もし移動してしまったときはbinフォルダ内に戻
すと復帰できます

デスクトップへのショートカットの作り方

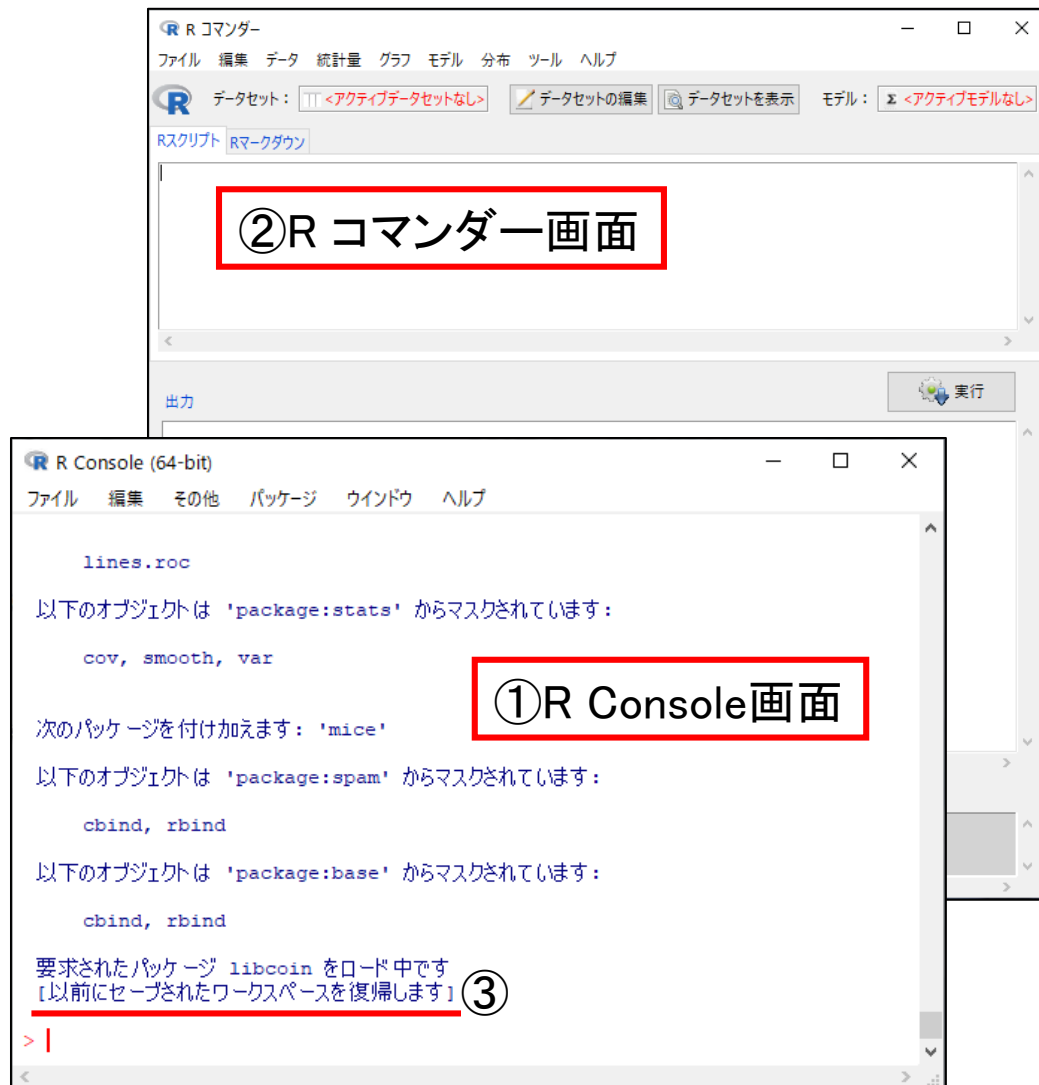


①Rgui.exe上で
右クリック



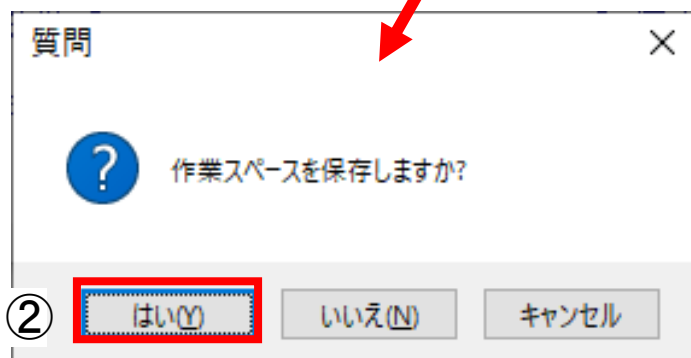
- ①「Rgui.exe」のアイコン上で右クリック→②「送る」を選び、③「デスクトップ（ショートカットを作成）」を選ぶとデスクトップ上に起動ファイル「Rgui.exe」のショートカットが作成されます
- 作成されたショートカットのダブルクリックで改変Rコマンドを起動できるようになります
- ✓ 「ショートカットの作成」（青枠部分）のメニューを選ぶと、同じフォルダ内にショートカットが作成されますので、作成されたショートカットをデスクトップまたはそれ以外でも好きな場所へ移動する方法でも可能です

改変Rコマンドーの起動



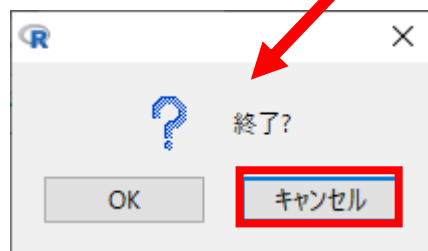
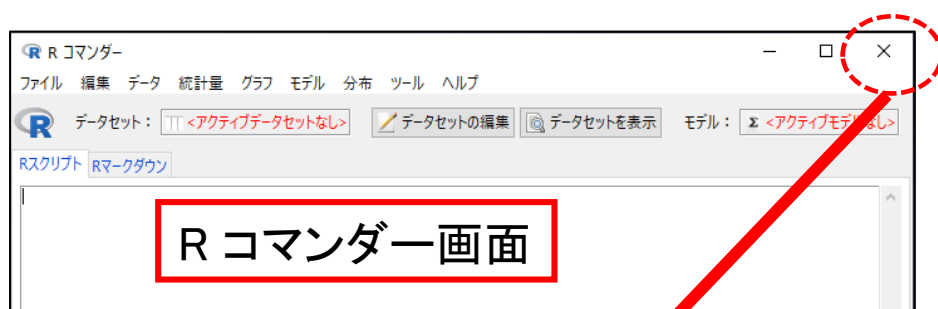
- 「Rgui.exe」のダブルクリックで①R Consoleと②Rコマンドーの2つの画面が起動します
- ①R Consoleはオリジナルの「R」の画面です
 - ✓ 通常は直接の操作に使用しませんが、Rコマンドーを使用するための基本部分になります
- ②Rコマンドーはデータの操作や検定など、主にこちらのメニューを使用します
- 起動には時間がかかることがあります
 - ✓ 起動中はR Console画面に一連の文字が出るので、③最下行に[以前にセーブされたワークスペースを復帰します]と表示されて操作可能な状態となるまでお待ちください

終了時の注意



- 改変Rコマンドを終了するときは、Rコマンド画面ではなく①R Console画面の閉じる (X) ボタンをクリックしてください
- 次に「作業スペースを保存しますか？」という質問が出るので、通常は②[はい]をクリックします
 - ✓ [はい]を選ぶと作業したデータ等がすべて保存されて終了します
 - ✓ [いいえ]を選ぶと起動から終了までの作業がすべて消えますので、作業したデータを消したいときは[いいえ]を選んでください
- この手順でR Console画面とRコマンド画面の両方が終了します

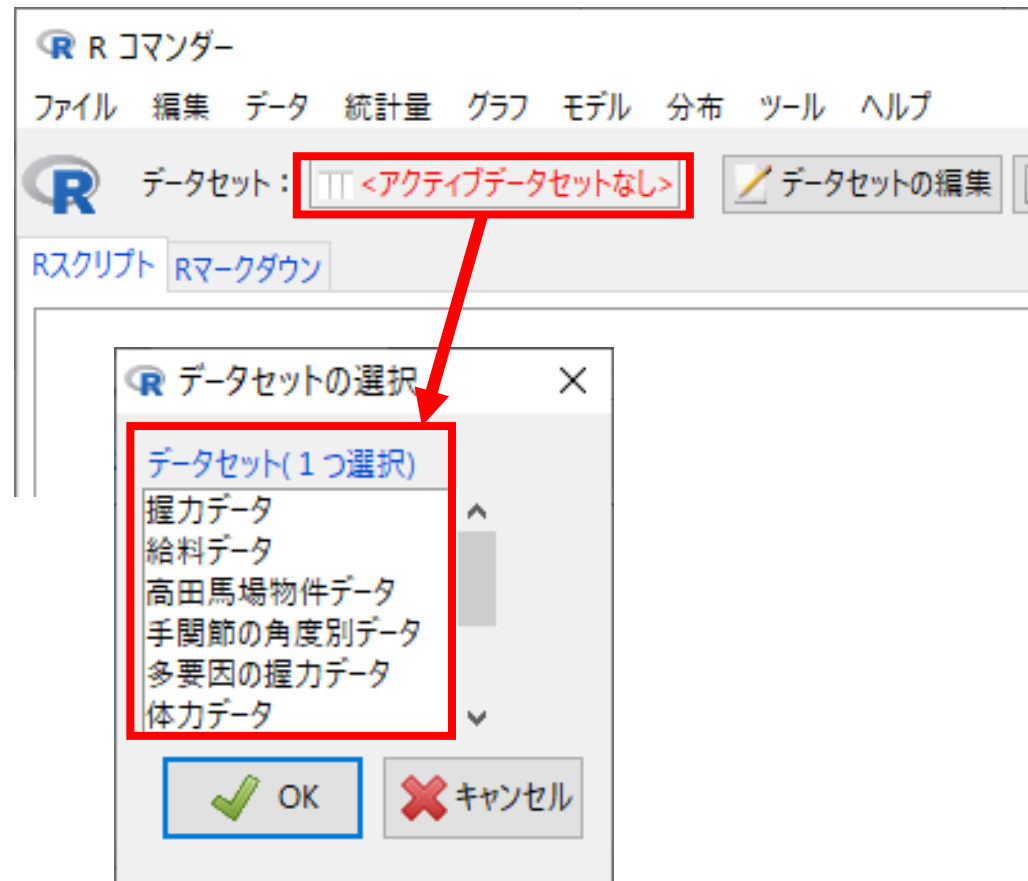
Rコマンドー画面の閉じるボタン



- 終了するときにはR Console画面の閉じるボタンをクリックしますが、誤ってRコマンドー画面の閉じるボタンを押してしまったときは、「終了?」というボックスが出てくるので[キャンセル]を選べばキャンセルできます
- ✓ 「終了?」→[OK]としても不具合はありません
- その後R Consoleの閉じるボタンで通常の終了操作を行ってください

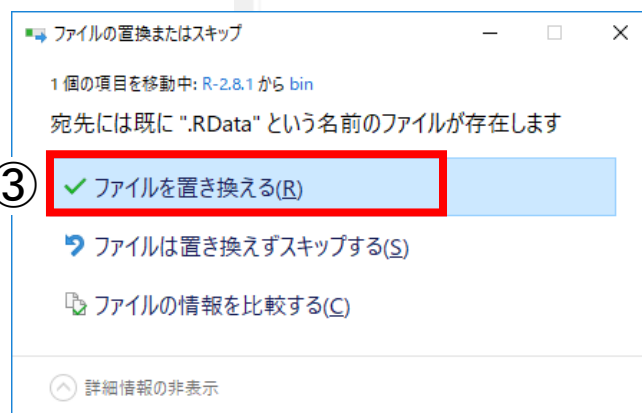
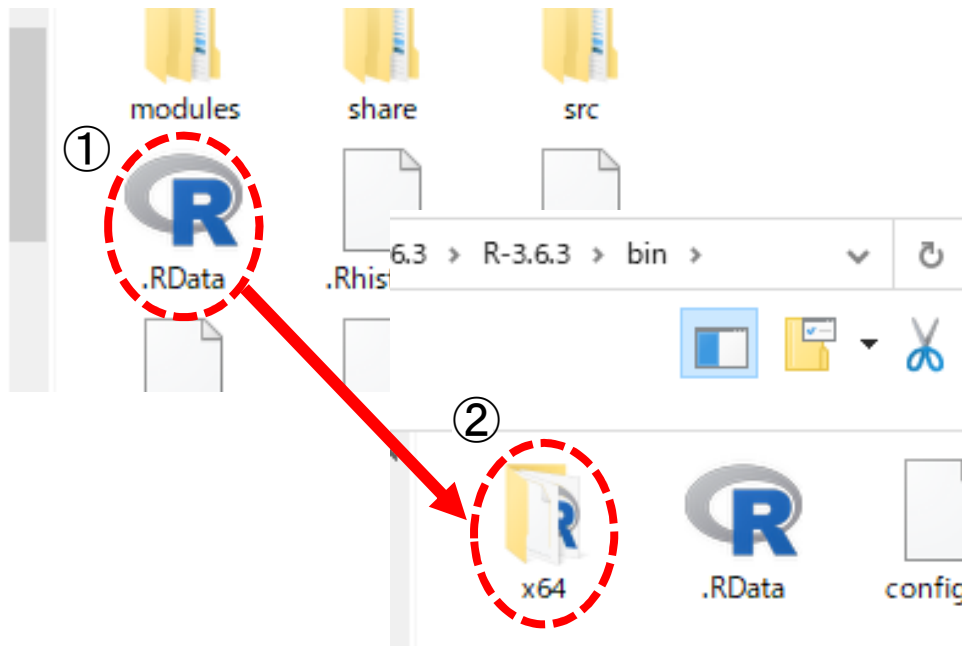
正常動作の確認

Rコマンダー画面



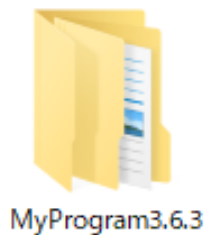
- Rコマンダー画面で<アクティブデータセットなし>の赤字部分をクリックします
- 「データセットの選択」というボックスが現れ、「データセット」に、握力データとか、給料データ、..などの文字が羅列されていたら、正常動作しています
- もしこれが現れなかったら、次スライドの「[正常動作しないときは①](#)」をお試しください
- それでも解決しない場合は「[正常動作しないときは②](#)」を行ってください

正常動作しないときは①



- Rコマンドーを一旦閉じます
- R-3.6.3フォルダの中にある①「.RData」というファイルをコピーします
 - ✓ 復元バックアップ用ファイルになります
 - ✓ 「bin」フォルダ内にある「.RData」も同じくバックアップ用ですので、こちらをコピーしてもOKです
- コピーした「.RData」を②x64フォルダの中に貼り付けます
 - ✓ 「.RData」上で右クリック→コピー→x64フォルダ内で右クリック→貼り付けの作業
 - ✓ 32bit用の場合は、R-3.6.3フォルダの中にある「.RData」をコピーしi386フォルダ内に貼り付けます
- 同じ名前のファイルが存在するので③「ファイルを置き換える」を選び上書きします
- Rコマンドーを再起動してください。

正常動作しないときは②



フォルダごと削除



再解凍

- **Modified_R_Commander 4.0.2.EXE**
(または**MyProgram3.6.3_32.EXE**)
を再解凍します
- 再解凍する前に、**MyProgram3.6.3**
(または**MyProgram3.6.3_32bit**)
フォルダごと (中のファイルもすべて) 削除しておく必要があります
 - ✓ 削除せずに再解凍すると膨大な量の
ファイル上書き確認が表示されます
- 時間がかかりますが、正常に動くまで再解凍を繰り返して下さい
 - ✓ 2~3度で正常動作することが多いです

正常動作しないときの対処まとめ

- まずはR-3.6.3フォルダまたはbinフォルダ中の「.RData」(復元バックアップ用ファイル)をx64フォルダ(またはi386フォルダ)にコピー→上書きを試みてください
- それでダメなら解凍をやり直してください
- 解凍がうまくいかない原因として次のような可能性もあげられます
 - ✓ Modified_R_Commander 4.0.2.EXEファイルをダブルクリックしてから、ウィンドウが出るまで待てずに何度もダブルクリックしてしまう
 - ✓ 途中でキャンセルをしてからやり直して、膨大な上書き操作が入る→フォルダ削除後に解凍
 - ✓ セキュリティソフトが邪魔をしている→一時的に停止して解凍
- 次のような場合も、起動エラーの原因となります
 - ✓ 解凍後のフォルダを別場所に移動している→すべてのファイルをコピーしきれない時がある。必ず使用場所にEXEファイルを移動してからそこで解凍する
 - ✓ パス名に日本語が含まれている→英数表記のみのパス名で解凍し直してみる

操作中のエラーが出たときは

```
R Console (64-bit)
ファイル 編集 その他 パッケージ ウィンドウ ヘルプ
以下のオブジェクトは 'package:stats' からマスクされています:
  cov, smooth, var
次のパッケージを付け加えます: 'mice'
以下のオブジェクトは 'package:spam' からマスクされています:
  cbind, rbind
以下のオブジェクトは 'package:base' からマスクされています:
  cbind, rbind
要求されたパッケージ libcoin をロード中です
[以前にセーブされたワークスペースを復帰します]
Error in structure(.External(.C_dotTcl, ...), class = "tclObj") :
  [tcl] bad window path name ".14".
> |
<
```

- 原因は不明ですが、正しい操作をしていても突然結果が出力されなくなる現象が起こることがあります
- フリーズとは違い、メニュー操作自体はできる状態です
- Rconsole画面を見ると、図のようにError in structure(.External(.C_dotTcl, ...), class = "tclObj"): [tcl] bad window path name ".21".と警告が出ています
- このような場合は、**改変Rコマンドをいったん終了してから再起動すると復帰**できます
- ✓ 通常の終了時と同じように、「作業スペースを保存しますか?」という質問には②[はい]を選んで終了しても問題ありません